

## ●第92回日本生理学会大会（第120回日本解剖学会総会・全国学術集会との合同開催）

日本生理学会側組織

大会長（大阪大学大学院医学系研究科，生命機能研究科） 岡村 康司  
副大会長，プログラム委員長（和歌山県立医科大学医学部） 前田 正信  
副大会長，市民公開講座担当（大阪大学大学院生命機能研究科，医学系研究科） 北澤 茂  
事務局長（大阪大学大学院医学系研究科） 澤井 元

日本解剖学会側組織

会頭（京都市立医科大学大学院医学研究科） 河田 光博  
副会頭（京都市立医科大学大学院医学研究科） 横山 尚彦  
副会頭（京都市立医科大学大学院医学研究科） 小野 勝彦  
プログラム委員長（大阪大学大学院医学系研究科） 原田 彰宏  
事務局長（京都市立医科大学大学院医学研究科） 松田 賢一

会期：2015年3月21日～23日

会場：神戸国際会議場・展示場（兵庫県神戸市中央区）

本大会は、関西地区の生理学会員が中心となり企画され、2011年3月の第88回大会以来の二度目の解剖学会との合同大会となりました。前合同大会は、未曾有の東日本大震災のため誌上開催のみとなり、会場開催としては今回が初めてとなりました。前合同大会時と同様に、解剖学会と生理学会の綿密な擦り合わせを行い、学会の共通性と差異の両面を配慮しながら計画が練られていきました。前大会の大会長・会頭はもちろん、両学会のプログラム委員の先生方の厚い協力のもとで無事、開催に漕ぎ着けることができました。

大会のプログラム構成は、前合同大会の理念を継承したものであり、生理学会、解剖学会の活動をボトムアップすることを最優先して、一般発表はポスターのみとし、シンポジウムでは両学会の共催の公募シンポジウムを母体とし（2014年5月末に公募締め切り）、これにプログラム委員会企画した企画シンポジウム、両学会の各種委員会合同で企画したシンポジウムが加わりました。大会での使用言語は、教育プログラムなど一部のセッションを除き、原則英語としました。プレナリーレクチャーは生理学会と解剖学会の発展性の象徴となるような海外研究者2名（新規電子顕微鏡解析技術開発による細胞内オルガネラの研究のWolfgang Baumeister博士，味覚の分子機構・神経回路機構の研究のCharles S. Zuker博士）を招聘し、国内のカウンターパートの講演者（構造生

物学研究の藤吉好則博士，嗅覚研究の坂野仁博士）を併せた、プレナリーセッションの形をとりました。また、オートファジー遺伝子の発見者である大隅良典博士には、単独のレクチャーをお願いしました。

今回は初めての試みとして、医学部生の研究発表のセッションの企画、プログラム集のコンパクト化と電子アプリによるプログラム内容の閲覧、合同懇親会などを盛り込みました。市民公開講座も合同で、会期前日に、「人間と芸術」をテーマとして座談会形式で行われました。合同大会としての企画を行う一方で、萩原記念レクチャー、田原記念レクチャー、入澤賞など各賞の受賞企画シンポジウムやポスター発表、グループディナーなど、例年の生理学会固有の行事も行われました。数年前より開始されてきた教育プログラムについては、解剖学会との合同企画で行われ、模擬講義、教育講演などが例年よりも充実した形で行われました。

事前参加登録者の多さやプログラム内容の充実度からも事前に予測されておりましたが、当日は天候にも恵まれて大変盛況で、シンポジウム会場、ポスター会場ともに活発な議論が行われていました。大きな混乱や事故もなく、無事幕を閉じることができました。参加いただきました皆様、ご協力いただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。

以下にアーカイブ情報として主な項目を報告させていただきます。

### 1. 大会参加者数

事前登録者数：2304名（うち、生理学会会員

1043名)

当日参加者数：762名(うち、生理学会会員 180名)

参加者総数：3066名(うち、非会員シンポジスト：184名、海外からの参加者41名)

## 2. 発表演題数

プレナリーレクチャー：5題(Wolfgang Baummeister, 藤吉好則, Charles S. Zuker, 坂野 仁, 大隅良典)

その他特別講演：4題(廣川信隆, 柳田敏雄, 河野憲二, 栗原 敏)

シンポジウム講演数：428題(シンポジウム数：公募シンポジウム 71件, 委員会シンポジウム 10件, 大会企画シンポジウム 9件, 大会長, 会頭企画シンポジウム 2件, 入澤賞シンポジウム 1件)

解剖学会奨励賞受賞講演：4題

一般発表(ポスターのみ)：1146題

受賞ポスター：2題

男女共同参画委員会ポスター：1題

MD研究者育成プログラム発表：口演8題 ポスター51題

合計：1649題

その他演題 ランチョンセミナー：16件(21題), 合同教育プログラム：15題

## 3. 参加費

正会員 13,000円(事前) 15,000円(当日), 非会員 15,000円, 博士大学院生 5000円(事前) 6000円(当日), 修士大学院生 3000円(事前) 4000円(当日), 学部学生無料, 非会員シンポジスト無料 懇親会費 6000円(学生 3000円)

## 4. 大会の財務について

生理, 解剖それぞれの大会の収支は, 合同大会の収入・支出を, 両大会に固有のものを除いて一定の比率で按分して計算しました。この按分のための比率として, 大会前の2月20日現在入金を完了している事前参加登録者のうち両学会の会員数の比を用い, 日本生理学会 56%, 日本解剖学会 44%としました。第92回日本生理学会大会の経費は 40,444,180円であり, その資金の内訳は, 参加費 16,890,160円, 懇親会費 1,849,680円, 商業展示出展料 5,544,000円, 広告料 1,377,600円, 共催セミナー 6,944,000円, 寄附金 4,539,200円, 助成

金 504,000円, 学会からの拠出金 2,000,000円, その他 795,540円でした。

## 5. 本大会の特筆すべき内容について

### 6-1. プログラム集およびアプリ

プログラム集を持ち運びやすいものとするため, 判型を A5判に縮小し, 演題の表記を筆頭演者のみとし索引を省略するなど簡素化しました。一方, シンポジウムには概要を掲載することで, 参加者に有用な情報を盛り込む様にしました。簡素化した代わりとして, iOS用, アンドロイド用, web用の三種類の電子版のアプリを作成し, プログラム・抄録の確認と検索を行えるようにしました。JPS増刊号による抄録集は例年通り発行しました。

### 6-2. 合同懇親会

二日目の夜に, ポートピアホテル内にて, 解剖学会と合同で懇親会が開催されました。来賓には, 第29回日本医学会総会 2015 関西会頭の井村裕夫先生, 大村裕先生(日本生理学会名誉会員), 河野邦雄先生(日本解剖学会名誉会員), FAOPS2015 事務局長 Malaivijitnond 博士ほかが招待されました。参加者 615名(事前登録者数 生理学会 207名, 解剖学会 213名)

### 6-3. 医学部生の発表

本合同大会では, MD研究者育成プログラムとの合同企画で, 1日目にプログラム履修学部生による口頭発表がシンポジウム枠の中で行われ, ポスター発表が特設コーナーで行われました。

### 6-4. 優秀演題賞

例年優秀演題賞はポスター会場での当日審査により行われてきましたが, 今回は解剖学会との合同で, 事前に申請を募り, 審査委員会によって, 大学院生枠, 学部生枠の2つのカテゴリーで選考され, 大学院生枠では7件, 学部生枠では3件が決定し, 表彰式が合同懇親会会場にて行われました。

### 6-5. 合同教育プログラム

解剖学会の協力を得て, 2学会の合同で, 模擬講義, レクチャーなどを2日間に亘り開催しました。